



(1) 全学副専攻プログラム

総合大学として、人文社会科学、自然科学、生命科学のあらゆる教育研究が行われている強みを生かし、所属学部によらず多様な分野の授業科目を履修できる体系。所属学部の学びに加えて、自分の興味関心のある分野について体系的に学ぶ。修了要件を満たした場合は、修了証書もしくはオープンバッジが発行される。オープンバッジは、習得した知識やスキルを証明するデジタル証明書である。

(2) バンチプログラム

全学副専攻プログラム同様に学部を問わず履修可能。イシュー（課題）について体系的に学修できるよう授業科目を組み合わせているほか、小さなまとまり（6-10単位程度）とすることでより学びやすい仕組みとした。各プログラムの要件を満たした場合にはオープンバッジが発行される。



かたらいの森（西千葉キャンパス）

「**多数の副専攻とバンチプログラムを実施**」

千葉大学の学士課程教育は、「普遍教育」と「専門教育」を密接に連携させたカリキュラムを構築しています。普遍教育科目は、英語をはじめとした国際発展科目群、地域科目群、教養コア科目や数理・データサイエンス科目などの学術発展科目群の3つに分類されています。

普遍教育と専門教育の垣根を越えて体系的、学際的に学ぶことができる全学副専攻プログラム^①やバンチプログラム^②を多数提供しています。これらは、専攻分野以外の幅広い知見に触れ、国内外を問わず社会で活躍できる能力を身につけることを目的としたプログラム

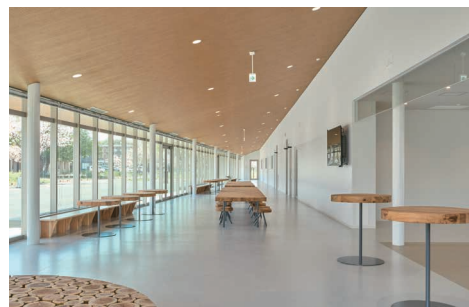
新たなイノベーションの創出拠点へ

千葉大学は、文部科学省と日本学術振興会が実施する「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に全国で選ばれている25大学のうちの1つです。「つねにより高きものをめざして」という千葉大学の理念に基づき、本学の強みや特色ある研究領域において、学び、研究し、イノベーションを創出する場として、国内外の学生や研究者に選ばれる大学となることを目指します。まずは、免疫学・ワクチン学研究、予防医学研究等を戦略的に強化し、成果の社会実装に繋げるとともに、千葉大学全体の研究力強化を図っています。

具体的な取り組みとして、2025年4月に「大学と社会をつなぐ」をミッションに、株式会社千葉大学コネクト（千葉大学100%出資）を設立しました。大学で取り組んでいる研究成果は、社会の様々な課題解決に向けた新しい知識や技術を生み出すポテンシャルを秘めています。株式会社千葉大学コネクトにおいて

志願者数は10年連続1位 学生を全力でサポート！

千葉大学は2025年度入試で一般選抜の志願者数が1万1914人と、16年連続で1万人を超え、国立大学の中で10年連続1位に輝きました。教育・研究に関する評価はもちろんのこと、キャリア支援や奨学金など学生に対してのさまざまな支援が充実していることの証しと言えるでしょう。入学科や授業料の免除や



柏の葉キャンパスに誕生したBIHのオープンスペース

大学独自の奨学金を各種用意しているほか、大学院生の支援に注力しています。

入試では、国立大学で早期に外国語検定試験を個別学力検査において導入するなど独自の入学試験を展開し、記述式問題を重視して受験生の論理的思考力を評価しています。また、特別選抜の募集人員を増やすなど、主体性のある学生の募集に力を入れています。

横手学長は、「千葉大学は東京や成田空港からも近く立地的にも非常に恵まれた環境にあります。そのような中で、自ら考え将来を判断する力を養い、国際的な感覚を身に付けてグローバル社会で活躍できるリーダーとして社会に羽ばたいてみませんか。私たちはあなたの夢や希望を叶える学修環境を提供します」とエールを送ってくれました。

は、社会のニーズに寄り添いながら、研究成果を社会に実装することで、イノベーションを創造し、地域社会の課題解決を目指します。

また、千葉大学の特色の一つでもある園芸学研究のフィールドがある柏の葉キャンパスには、2025年4月に、産業界や地域と協力しつつバイオ×健康領域でのイノベーションを目指す千葉大学Biohealth Open Innovation Hub（BIH）が整備されました。施設内には企業との共同研究ラボスペースや、宇宙園芸研究センターの研究施設などを備えています。大学・企業・地域が連携して作り上げるオープンイノベーション拠点として、今後多様なプログラムを展開していきます。

千葉大学は、高い知性と豊かな人間性を育み、グローバル社会で活躍できるリーダーの育成を目指しています。日本の人口が減少し、世界の国境の壁も低くなる中、全員留学はグローバル人材の育成のための大きな力となるでしょう」と横手学長。



横手幸太郎学長

1988年千葉大学医学部卒業。1996年スウェーデン国立ウプサラ大学大学院博士課程修了。2009年千葉大学大学院医学研究院教授。2021年慶應義塾大学で経営学修士取得。2020年～2024年3月まで千葉大学医学部附属病院院長並びに副学長。2024年4月から現職。研究分野はライフサイエンス、代謝・内分泌学、老化。

2024年に創立75周年を迎えた千葉大学は、「つねにより高きものをめざして」の理念のもと、これからの世界で大切なこと、千葉大学が注力すべき強み、学生や教職員が目指す姿について熟考を重ね、2025年度から新たなビジョン「生命、環境、そして社会へ。知の共鳴で未来を拓く千葉大学」を掲げています。このビジョンは、「研究」「教育」「社会貢献」「経営」「信頼」の5つの柱と、3つの行動指針から構成され、千葉大学がこれからの時代に果たすべき使命と進むべき道を明確に示しています。

11学部19大学院を有する総合大学として、全員留学などの「ENGINEプラン」や、高度な専門性を育てる卓越大学院プログラムにも力を入れています。「生命」「環境」「社会」をキーワードに、多様な知が響き合うキャンパスで、世界をリードする人材の育成をめざしています。

千葉大学

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 入試課 TEL 043-251-1111(代) <https://www.chiba-u.ac.jp>

アントレプレナーシップ センターを新設

千葉大学は、今春「アントレプレナーシップセンター」を新たに設置しました。これまで、本学が取り組んでいたアントレプレナーシップ教育を軸として、「社会課題からバックキャストして課題解決を行うアントレプレナー人材の育成」を目指しています。学内組織に分散していた関連授業を体系的なアントレプレナーシップ教育プログラムとして再編するとともに、実践的な講義や海外でのアントレプレナーシッププログラムも導入し、総合知の活用による、「教養」「グローバル」「実践」を意識したアントレプレナーシップ教育を推進しています。

横手幸太郎学長は、このセンターが目指すものについて、次のように語ります。

「『アントレプレナーシップ』と聞くと、会社を立ち上げる『起業』をイメージするかもしれませんが。しか

し、私たちが目指すのはそれだけではありません。アントレプレナーシップとは、困難なことや社会の変化に立ち向かい、常識にとらわれずに行動し、新しい価値を生み出していくための考え方や姿勢そのものです。本学のアントレプレナーシップ教育では、学生の皆さんの中に眠る『世の中の課題を見つけ出す力』や『周りの人と協力しながら、失敗を恐れずに解決に挑戦する力』を育んでいくことを、何よりも大切にしていきます」

豊富な海外留学プログラム で全員留学を推進

千葉大学では2020年4月から国公立の総合大学としては初となる学部・大学院生全員留学、スマートラーニングの実践強化と英語教育の改革を三本柱として「ENGINE」をスタートさせました。

原則として在学中最低1回の海外留学を求めており、10日間程度の短期プログラムから3～6か月の語学留学、半年から1年間の交換留学などさまざまな留学プログラムを選択できます。また、日本にいながら海外留学に行くような効果が得られるオンラインプログラムも用意しています。全学募集型のプログラムでは、2024年度は渡航は67プログラム1494名、オンラインは6プログラム1144名が履修しました。

「千葉大学は、高い知性と豊かな人間性を育み、グローバル社会で活躍できるリーダーの育成を目指しています。日本の人口が減少し、世界の国境の壁も低くなる中、全員留学はグローバル人材の育成のための大きな力となるでしょう」と横手学長。



西千葉キャンパス